

が利用しやすい総合福祉プラザ建設の為に、大変参考になる有意義な行政調査であった。

【木曽町】

木曽町は長野県の南西部に位置し、町の面積の90%を山林が占めており、木曽檜に代表される森林資源が豊富である。

西に木曽御嶽山、東に中央アルプス木曽駒ヶ岳がそびえ、木曽川が町の中央を流れ、豊かな自然に恵まれている。

人口は、1万1千265人（4月1日現在）、面積は約476km²と、人口は本市の約二分の一、面積は本市の約3.7倍となっている。

生徒学習交流事業は、三福島交流事業（木曽町・北海道福島町・松浦市）の一環として平成元年から行われている。中学生がホームステイをしながら、お互いの地域の文化や風土を学習し、人と人との触れ合いの中で、本市の生徒は冬の寒さとスキー、木曽町の生徒は夏の暑さと平和学習を体験している。

ウッドスタート事業は、平成28年にウッドスタート宣言をし、潤沢な森林資源を活用する産業振興と乳幼児から木とのふれあい、心豊かに成長していくことを目標にしている。地元産材活用で、地元木工職人の作成した木の玩具やお椀を新生児に贈っている。

平成29年度には県補助金を活用し、木育キャラバンを実施し、木曽独自の木製玩具の開発展示、廃校利用した木製品作成のワークショップ実施し、今年度はおもちゃインストラクター養成講座開催している。

生徒学習交流事業では、生徒たちはそれぞれの季節・風土の違いを、驚きを以て体感している。また、長崎での平和学習を体験したこと、平和への認識に変化が生じ、交流後の感想文にも「戦争などの殺し合いは必要ありません」と記している。この思いが子ども達から大人へと繋がって、広がることを強く願っている。本事業はお互いの市町にとって大変有意義であり、今後とも途絶えることなく、継続させることが必要な事業である。

ウッドスタート事業は、木曽町の持つ優位性、すなわち、優れた木曽の木材があり、更に、それらに携わる木工職人、林業大学の学生、木曽青峰高校で木製家具製作を学ぶ高校生などを含めた多くの町民、これらが相俟って、この事業が成り立ったものと判じた。

翻って当市でこの事業を成すためには、人材・木材に関し、松浦らしさを表す方策が十分検討される必要があると感じた。松浦市においての事業実施に関し、課題や取り組み方法など考察すべき点を明確にするこ

とができ、大変有意義な行政調査であった。

その他各委員会の活動

産業経済委員会

8月27日に委員会を開催し、工業会加盟の企業9社と市内企業の振興、雇用対策等について意見交換会を行いました。その中で、光回線の早期整備、市内企業に対する施策の充実などの意見が出されました。また、労働者不足により外国人労働者が増加していることを受けた外国人労働者の受入れ環境整備に関することや電気料金の負担増など現状や課題について、企業から幅広い意見を聴くことができました。



企業との意見交換会

西九州自動車道整備促進特別委員会

7月12日、伊万里市において、伊万里・平戸・松浦市議会・佐々町議会西九州自動車道建設促進協議会総会が開催され、西九州自動車道の早期完成に向けた平成30年度の活動計画等を決定するとともに、「道路整備予算の確保等に関する決議」を全会一致で採択し、政府及関係機関へ決議文を送付しました。

8月30日、同協議会の活動計画に基づき、佐賀県知事、佐賀県議会議長並びに佐賀国道事務所長、長崎河川国道事務所長に対し、伊万里道路、伊万里松浦道路、松浦佐々道路の事業促進と早期完成、道路整備予算の安定的な財源確保を要望しました。各機関とも、予算確保が重要であり、地元自治体と一致協力して取り組んでいきたいとの回答をいただきました。

今後、長崎県知事、長崎県議会議長に対しても、同様の要望を行う予定としております。